

## 駒ヶ根市文化財

名称	光前寺の青獅子、陵王(龍王)・宇転王(優填王)	
種別	美術工芸品(彫刻)	
指定	市・有形文化財(平成 25・2・26)	
所在地	赤穂 29	
所有者	光前寺	
説明	<p>光前寺には、雨乞い信仰に関わる青獅子と陵王(龍王)・宇転王(優填王)の二つの面が伝えられている。いずれも木造彫眼である。</p> <p>青獅子は材にヒノキを用い、大きさは面奥 44.5cm、高さ 29.0cm である。神社で行われている獅子練りに用いられるものに比べ、大きいうえに奥行が深い。彩色を施しており、下地は胡粉地に紺青彩色で、目に金泥、眉と髭は緑、目尻と唇に朱、歯に白を塗る。</p>	
	 <p style="text-align: center;">青獅子</p> <p>内部に「熱田之住 森満家法眼 同小拾郎満泰公 元和六曆庚申霜月吉日 住持 法印尊應」の墨書があり、江戸時代初期元和 6 年(1620)に制作されたことが分かる。</p> <p>獅子頭の形式は、通常四つに分類されている。その特徴をあげると耳が立つ関東・東北系、角が出ている加賀系、全体に丸味をおびてふっくらしている伊勢系、目玉が大きく独特の風格をもつ南方系である。光前寺の青獅子は、このいずれにも分類しきれないところから、獅子ではなく「竜」であるとする説もある。雨乞い信仰との関連で、「水をよぶ竜」と考えるのも一説であろう。</p>	<p>陵王面の大きさは、面長 21.3cm、幅 17.0cm である。面裏に「奉施入代吉貫文 兵部卿法眼作 享禄三年庚刀口月日」の墨書がある。ちなみに享禄 3 年は 1530 年である。</p> <p>宇転王面の大きさは面長 33.5cm、幅 24.5cm である。冠を付けた男面である。製作年代を記す銘は無いが、前述した青獅子と作風が一致しており、同時期の作品とされている。</p>
	 <p style="text-align: center;">陵王(龍王)</p>	 <p style="text-align: center;">宇転王(優填王)</p>